



会報

(社)日本山岳会石川支部 支部長 中川 博人

会員の平均年齢が1年ずつ上昇していく危機的な状況で、若い人の加盟は急務であります。いわゆ る家族会友以外の会友諸氏は、改正規約第5条2項の趣旨を理解いただき、3月末までに新年度会員へ 入会を期待します。

# 山行•行事報告

## 1. 不惑新道登山道整備

平成24年10月20日(土) 日程

場所 小倉谷山鞍部~小倉谷山

大庭保夫 大庭太洋子 織田伸治 内藤千代 中川博人 西嶋錬太郎 関本邦晴 参加者 前川陽 塚本(大庭知人) 以上9名

てまず、きちんと整備された水洗トイレにびっく は時間も燃料も残り少なかったので次回に持ち越 り。清々しい気分で登山道整備に臨む。数台の車 す。ここからは山竹田に下りる道と、火燈古道の に分乗し、山竹田登山口に向かう。8:30 山竹田登 山口出発。参加者9名。草刈機3台、チェーンソ 一1 台。9:30 火燈山到着。小休止の後、小倉谷山 に向かう。今日の刈払いは富士写-小倉谷山の鞍 部から小倉谷山までの間を重点的に行う。10:10頃 から昼休憩まで、皆それぞれに刈り払い作業に没 頭する。道沿いには石楠花が沢山あり、春には見 事な石楠花街道になるのだろう。そう思うと枝を 切るのも、枝を除けるのも慎重になった。12時頃 から、小倉谷山の少し先の小さなピークでパノラ マを眺めながら昼食。

から富士写ヶ岳が見え辛い為、見易いように木や 到着。15:50 無事解散。

8:00 火燈古道登山口駐車場集合。駐車場に着い 草を刈ってはどうかという意見があったが、今回 二手に分かれて下る。火燈古道は福井との県境で あり、竹田川と大内谷川の分水嶺でもある。大部 分が痩せた尾根道で緩やかな道と少し急な下りの 繰り返し。足元はふかふかで足に優しい。慎重に、 でもテンポよく下りられる。鉄塔下の急傾斜に取 り付けてあるロープが短い、ということで西嶋さ んがロープを足して下さり、ちょうどいい長さに なった。長い道のりなのによく整備され、大庭さ んご夫妻はじめ古道を復活させた皆さんのご苦労 が偲ばれる。稜線が途切れた辺りで大内峠。そし て程なく駐車場に到着。美味しい水を一口飲んだ 13:00 所々刈りながら下る。14:30 火燈山。山頂 ところで 15:30 に山竹田に下りたグループが車で (文:内藤千代)





## 2. 自然観察会(公益活動)

- · 日程 平成 2 4 年 1 1 月 3 日(土)
- ・場所 鑓水観音山(やりみずかんのんやま)
- ·参加者 大庭 保夫 大庭太洋子 中川博人 西嶋錬太郎夫妻 前田健進 村上哲 長清幸子 埴崎滋 (以上会員関連) 西中 坂井 米田 石黒 中山 塚谷(以上一般参加) 計 15名

時雨模様の中、実施が危ぶまれたが、予定の 9 時にはほぼ全員が集合。分散集合でつくばね登山 口に移動し、路肩や林道脇にそれぞれ駐車する。 中川支部長挨拶、長清幸子解説員の紹介後、10時 手入れの行き届いた檜の植林地を左に見 ながら平坦な道を進む。鑓水の尾根に出るまでは、 緩やかな登りで、杉、檜の植林とスダジイ等の照 葉樹、コナラ、シラキ、タムシバ、ホウノキの落 葉広葉樹の混交林を辿る。この開発された山道の 基になるツクバネの木が目立つようになる<アカ ネ科>のツルアリドウシの説明では梅雨時に白い 小さな花を茎の先に2個ずつ付けて出来た真紅の 果実が合着して 1 個の実となる珍しい草本とのこ と。「宇宙人の鼻のようだ」と形容する長清さんの 説明でカメラ持参の面々が等しく接写していた。 ウラジオガシは 20m にもなる高木で地表に落ち ている葉は鋸葉があり、裏面に粉白色を呈するこ とから名付けられたとする。木に着葉の時は気付 かぬが改めて命名の由来を知る。クサギ(臭木) はブナ科コナラ属の落葉小木で葉を採ると独特の 悪臭を発することとなりイタズラでこの葉を取り 散らすハイカーもいる。途中 193.4m の九社谷四 等三角点に立ち寄り、測量士の中川支部長から三 角標識のサイズや地中埋設の基盤等の説明を受け る。登路は徐々に高度を上げる快適な道でやがて



尾根に抜け出る。観音山(402.3m)の二等三角点 脇の櫓に到着するが、あいにくガスって白山方面 は全く望めず、高野山、奥獅子吼、倉ケ岳、揚原 山の山並みと辰口丘陵地に展開する先端科学大学 院大学等が一望される。小雨状態の観音堂で昼食 をとり、早々に下ることとする。10数年前に消失 した観音堂は地区の有志で再建され、全員が丁度 満席になるスペースである。因みに、麓の仏大寺 は、能登総持寺の第三世大源宗真禅師が 1363 年 に開創。以降一向一揆にの勢力化にあってもなお、 維持されていた。この地域は白山権現の分社に近 接し、白山の観音信仰と重層して禅風の挙用が行 なわれていたと考えられ、白山の観音を勧請した 観音堂を白山礼拝所として、東南の方向に間近に 拝する堂宇が建てられたものとされる。樹木はオ オバタ、アズキナシ、コアジサイ、コナラ、コウ チワカエデ、草本はトキワイカリソウ、ナガハシ スミレ、マキノスミレ、ミヤマヨメナの植生がガ イドブックにあるが、冬枯れで同定出来なかった。 13 時出発。粘土質の急坂に、ステップが切られ た道が鑓水霊水方面へ続く。到着後各人が給水し

た道が鑓水霊水方面へ続く。到着後各人が給水して、あとは舗装の林道を 800m 下り、最後は、支部長の観察会の今後のあり方についての提言で締めくくった。 (文: 埴崎滋 写真;中川博人)



ツルアリドウシ

## 3. 岐阜支部創立 40 周年記念式典

- ・日程 平成24年11月17日(土)~18日(日)
- ・場所 岐阜市 「十八楼」 金華山
- ·参加者 太田義一 津田文夫 中川博人 前田健進 前川陽(以上5名)

出発の日は生憎の天候で、東海北陸自動車道の「ひるがの高原」あたりでは雪となり、今年初めて雪との遭遇となった。昼頃霞に煙る岐阜市内に着く。会場の温泉旅館「十八楼は」長良川を眼下に望み、鵜飼の場所もすぐ近く、老舗旅館の雰囲気をかもし出している。受付を済ますと馴染みの今峰事務局長が笑顔で岐阜支部発行の書籍の販売をしていたので、ご祝儀も兼ね5冊全部購入すると、相好を崩し喜ばれる。

岐阜支部はエリア内の山と今西錦司氏や高木碕 男氏等 JAC の著名人の宝庫で、書籍はいずれもこれらに関する希少価値のあるものばかりで大満足。記念式典は早田岐阜支部長の挨拶で始まったが、来賓と参加支部へのお礼等のあと、今期限りで後身に道を譲られるとのことで、一抹の寂しさを覚える。支部への功労者2名の表彰式のあと、尾上会長が挨拶され、JACの存続と活性化に向けた更なる会員増強に向けた取組みへの増強依頼があった。そのあとは、本日のメインゲストであるJ AC会員で槍ケ岳山荘の第三代オーナーである穂 刈康治氏から、初代「三寿雄氏」、二代「貞男氏」 と、現在の自分の、人と小屋にまつわるエピソー ドが講話とDVDで紹介されたが、大変興味深く、 会場は熱気に包まれた。

夜は、恒例の懇親会に入り、二次会を含め全国 支部との交流等で、夜中の1時まで盛り上がった。

翌日は、岐阜市内では最も有名な観光地であろう金華山と頂上の岐阜城を巡った。最初は怪しげな天気だったが、次第に快復し、頂上では陽も射し、紅葉の岐阜城から眺める濃尾平野は広大で北陸には無い景色は圧巻で爽快だった。

帰路は瞑想の小径コースで、冷たい風が吹き始めたが、それでも休日で小さい子どもを連れた家族連れが沢山、元気に登ってきたのには驚いた。一同無事下山し、岐阜支部へのお礼や他支部との再開を誓い、帰路の東海北陸道へと向かった。

後日早田岐阜支部長より、丁重なお礼状を頂戴 した。 (文:前川陽 写真:中川博人)









## 4. 平成24年度年次晚餐会

- · 日程 平成 2 4 年 1 2 月 1 日 (土)
- ・場所 品川プリンスホテルアネックスタワー5F
- ·参加者 太田義一 大幡 裕 津田文夫 中川博人 関本邦晴(以上5名)

年次晩餐会に出席してきました。以前から話には聞いていて、ドンナところか少々興味もありましたが、何より、初めての人には補助があるよと聞かされてついその気になった、と言うのがホントの所なのです。関本君を誘いました。「そんなら行くか」と言うことで二人旅が決定しました。

一番興味を引いたのは図書交換会でした。事前に、何冊もの本をリストアップしました。仕事柄、深田久弥関連のものがほとんどでしたが。恐る恐る会場へ入ってみると、大きな部屋にズラッと本が並んでいました。様子がわからないながらも、申込用紙に名前と会員番号を書いていきました。リストを見ているのと違い現物を見るとほかにも興味を引くものがあり申込みしました。抽選が始まり、一冊ずつ決まっていくのですが、私が2冊、関本君が1冊と、結果は惨憺たるものでしたが、

抽選中の少々のわくわく感は楽しいもので、これだけでも結構楽しめました。

いよいよ晩餐会が始まり、会長の挨拶や表彰式の後、新入会員紹介ということで私を含め新入会員は、ステージに上がりました。残念ながら私より年齢が上の人も結構いたようです。それからフルコースの会食の後、各支部の紹介があり、石川支部は5人プラスαが立ち、手を振りアピールしました。中川支部長の話では、出席人数の少ないときはみじめな感じのようです。かと言ってその為だけに出席も出来ませんが。遠方にいて普段会えない方に二人ほど会えました。旧交を温めあえる相手が多ければ楽しい機会になるでしょう。

最後に、貴重な会費の中から補助をして頂き、 よい機会を与えて頂いたことに感謝し、お礼申し 上げます。 (文・写真 大幡裕)



新入会員紹介(右から4人目が大幡会員)



尾上会長、神崎山協会長と記念撮影

## 年次晩餐会記念懇親山行「越前岳」の記録(12月2日)

今年の年次晩餐会記念懇親山行は、静岡県愛鷹連峰の最高峰「越前岳」1504.2mに登ることになった。晴れていると大きな富士山を見上げ、広い富士の裾野を見下ろして、愛鷹山の連山や駿河湾を眺めながら伝う道。樹林帯は明るく、心地よい山旅が楽しめる。

当日の行程は、7:30 JR 品川駅港南口のイーストタウン前に集合し、定員 90 名がバス 2 台に分乗

6756 太田義一

して東名高速裾野 IC から十里木高原「越前岳登山口」より出発し山頂を往復、再び往路を戻り 17:30 JR 品川駅港南口で解散である。さすが日本山岳会だ!定刻の 10 分前には全員が集合して出発できた。天気予報では北陸は雨と云うに東京は晴れと出ている。しかし北陸と違って空気が乾燥しているせいか、ぱさぱさとしている感じで、北陸の朝のようなすがすがしさがない。日曜日の東京の早

朝は車も疎らである。バスは首都高から東名高速に入り途中中井 SA で休息、裾野 IC を降りて県道24号、国道469号、別荘分譲地や富士サファリパークの看板が立つ枯れすすきの原っぱ、十里木高原の中を走り、漸く十里木バス停に着く。標高880m。気温−1℃。曇り。風速3mほどの風が吹き少し寒い。あたりの木々はまだ紅葉が残っているが、期待していた富士山は生憎2合目の裾野あたりから上はスッポリ雲の中である。ここから約400mほど車道を歩くと左側に登山口がある。

(9:50) 登山口では現地参加の静岡支部、東海支部員の歓迎を受けみかんの差入れと富士山の湧水、三島「柿田川の湧水」を頂き越前岳をバックに記念撮影。帰りのバスのタイムリミットは14:30である。撮影後は其々、三々五々(10:45)出発する。足元は黒い火山灰土で霜柱が立ち融けると滑りやすい。あたり一面枯れ薄の原でいきなりの急登だ。電波中継塔や反射板のある展望台で5分の立休み。返り見ると富士の裾野から十里木の別荘地や富士サファリパーク、ゴルフ場、牧場等が雄大に広がる。ここからリョウブ・アセビ・ヒメシャラ・オオカメノキ・ヤマボウシなどの明るい樹林の中を行く。晴れた日には樹林越しに大きな富士山の展

望が良いところだそうだが残念だ。やがて傾斜もなだらかになり標高 1098.9m。ベンチのある平につく。タイムリミットが気になるが、先頭集団に混ざり石川支部代表とばかりに私は行く。気温も少し下がり、さらに傾斜も急になり、黒土の軟弱な登山道の霜柱も融けだし滑ること著しい。ここらが馬の背と云い、ガマンのシドコロで勢子辻の分岐まで 2 時間。この山最高の急坂である。登りきるとここから道もなだらかになり越前岳の頂上に着く(12:25)。

山頂には2等三角点があり、赤土むき出しの広場には5寸釘のような霜柱が立ち、岩が点在する。南へ尾根伝いに呼子岳・鋸岳・位牌岳と続き、遠く駿河湾が光っている。富士山は相変わらず厚い雲の中である。小雪が舞いだした山頂での昼食を断念し下山する。下りは滑る足元に登り以上に神経を使う。1098.9m 地点まで下りて昼食とし、13:50登山口に帰着。往路を戻りJR品川駅で18:00無事解散となった。あとで中央道のトンネル崩落事故を知り胸をなでおろした次第だ。昨年の「箱根山」に続き、全国の岳友と交流を持てたことが意義大であり、関東の山にも興味がわいた。

# 今後の行事予定

参加希望者は、担当者もしくは事務局(前川:080-1952-7298 メール: maekawayo@gmail.com) まで申し込みください。

#### 1. 新春登山兼新年会

新春早々に、関本会員と大庭会員に手ごろな、楽しい登山と新年会を企画いただきました。 新たな気持ちで、すがすがしいイベントへの参加を是非お願いします。

- ・日程 平成25年1月27日(日)
- 場所 (1) 新春登山(希望により2箇所選択可能)

1. 鞍掛山 10 時 00 分駐車場集合 担当大庭 (090-9449-5201) 2. 粟津岳山 13 時 00 分粟津公園集合 担当関本 (090-4682-3172)

- (2) 新年会(当日宿泊:翌日仕事の方は早朝解散) 宿泊費の都合で日曜泊となりますが、勤務先直行にてご理解ください。 粟津温泉「おびし荘」電話(0761)65-1831 18時開宴
- ・会費(新年会) 男性 11,000 円 女性 9,000 円二次会のお酒・つまみ等差入れ歓迎!
- ・申し込み締め切り 平成25年1月15日(火)(注)申込みは、登山(いずれの)、新年会のいずれか、または両方かを申告願います。
- ・申込方法 関本 PC (<u>kuniharu@dog.email.ne.jp</u>) 関本携帯(<u>kuniharu0305@docomo.ne.jp</u>) 何れかにメールでお願いします。

#### 2. 平成 24 年度支部事務局担当者会議

- ・日程 平成25年1月26日(土)~27日(日)
- ·場所 JAC本部
- ·参加者 事務局長 前川陽

#### 3. 山岳映画の夕べ(公益事業)

- ・日時 平成25年2月23日(土) 14時~
- ・場所 石川県金沢勤労者プラザ(Tm.076-221-7771) 4 0 5 研修室 金沢市北安江 3-2-20
- ・上映作品 「白き氷河の果てに」

概要: 今から35年前、1977年に日本山岳協会が派遣した世界第2の高峰K2(8611m)挑戦の記録映画。日本人隊員47名、ローポーター延べ16000人の大遠征隊がキャラバンから登頂に至るまでの映像は、単に記録映画に留まらず、山男たちの人間ドラマを描いた、2時間の堂々たる山岳映画となっている。

- ・入場料等 無料 但し、定員54名になり次第、入場が切。 (支部関係の入場希望者は事前に前川まで連絡願います。)
- •担当 前川 陽

### 4. 雪洞訓練山行

- ・日程 平成25年3月9日(土)~10日(日)
- •場所 白峰西山上部
- ・申込〆切 2月16日(土)まで担当者まで
- ・担当 関本邦晴(申込アドレスは前項1を参照)

# おしらせ

### 1. 会員関連

- (1) 住所等の変更
  - •会員名 東野 智也
  - ・新住所 〒921-8024 金沢市泉野町6-19-53
  - ・電話 080-5900-5570 〔従来同様〕
  - ·変更日 H24年12月1日

### (2) メールアドレスの変更

- ・ 会員名 西嶋錬太郎会員のメールアドレスが平成25年1月から以下のとおり変わります。
- ・ 新メールアドレス ren24@wa3.so-net.ne.jp
- · 変更日 H25年1月1日

#### (3) 会員短信

#### ・田中康典会員

田中康典さんは今期を以って、石川県勤労者山岳連盟会長を辞任されます。就任当初より 1年の約束で受けられたものであり、1年間大変お疲れ様でした。今後は支部の技術担当 として、一層の技術指導が期待できそうです。

#### • 宮里重里会員

先日、小松の宮里さんから事務局に電話がありました。90歳になられた由ですが、とても元気なお声でした。山は無理だが、「参加できる行事があれば、是非参加したい」とのご意向でしたので、今度の新年会をお勧めしたく思っています。

### 2. 平成 25 年度「全国支部懇談会」(第29回) について

来年の全国支部懇談会は、静岡支部担当で日程は以下のとおりです。先般、有元事務局長と話した際には富士山の麓で、「喜んでいただける企画」にしたいとのことでしたので、皆様参加に向け、今から来年の予定表に是非お入れ下さい。

○ 日程 平成25年10月20日(日)~21日[月]

## 3.平成 24 年度山岳レスキュー講習会 (積雪期・西部地区) 開催要領

「日本山岳協会主催・遭難対策委員会主管」で以下のとおり実施されます。 申込み等、詳細は日本山岳協会ホームページの「研修会・講習会」を参照願います。

- ・趣旨 遭難事故現場で必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的とする。
- ・日程 平成25年1月25日(金)~27日(日)
- ・場所 国立登山研修所(№076-482-1211) 〒930-1406 富山県中新川郡 立山町芦峅寺ブナ坂 6

#### 4. 平成 25 年度支部定期総会 の日程について

1. 開催日 平成25年4月20日(土)

2. 場所 「白山里」(076-255-5998) 白山市瀬波子 51-5

3. 内容 1 7 時~ 総会

18時30分~ 懇親会

4. 会費 11.000 円

\*懇親会参加者は一泊二日となるが、日帰りで総会のみ参加でも可。 会友の方々も出席をお願い致します。